

埋文 あらかると

博物館実習

博物館実習は、学芸員資格取得を目指す学生に対して行う実地研修で、博物館に関する人材の育成や博物館活動の普及を目指して行う事業のひとつです。

毎年、当センターでは地元の大学を中心に、学芸員資格の講座受講生を博物館実習生として受け入れています。今年度は2名の実習生を受入れ、7月



博物館実習 14歳の挑戦

23日(火)から8月5日(月)までの間で合計8日間実施しました。

当センターでは、体験教室の運営補助と課題作成がカリキュラムのメインとなっています。

体験教室は夏休みのふるさと考古学教室と連携し、ガラス玉づくりや刀鍛冶体験等の補助を担当してもらいました。体験内容の理解や手順の説明、体験する子供たちへの注意やアドバイスなど、実際の活動を通して多岐にわたる学芸員の仕事を体感してもらいました。

課題作成は、特別展「HYOUSHIKI 標式土器」の体験コーナーの作成を行ってもらいました。パソコンを利用した「土器パズル」の説明や今回の目玉



である「円形土器劇場」で使用する、SNS映えを目的とした道具類を作成しました。それに伴う必要な写真撮影なども実習生が行いました。これらの展示物は特別展で見ることができますので皆さんのお越しをお待ちしています。

また、来年度の実習実施要項については1月にホームページ上で公開する予定です。
(松井 広信)

14歳の挑戦

富山県では、平成11年度から「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行っています。この活動は、中学2年生が5日間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、生涯にわたってたくましく生き抜く力を身に付けることをねらいとしています。今



年度は富山市内の中学校から7名の生徒を受け入れました。

活動では、館内・館外清掃や体験道具のメンテナンス、出土品の解説学習に取り組みました。小学校時代にセンターを訪れ、展示を見たり、火起こしやまが玉づくりをしったりした経験があるからこそ、利用者の立場にたって施設美化や体験道具のメンテナンスに取り組むことができました。

最終日には、来客や他施設に職場体験に来ている生徒を対象に展示解説を行いました。職員の展示解説を参考に、自分なりにアレンジして解説しました。解説を聞いた方々からは、とても分かりやすくおもしろかったとお褒めの言葉を



いただきました。

後日生徒から届いた礼状には、仕事の難しさや大変さを実感したがそれ以上に達成感や人の役に立つ喜びを感じられたと書かれていました。短い期間でしたが、生徒たちにとって大変意義深い活動になったことに嬉しく感じました。

(小嶋 剛)